

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201916	
法人名	医療法人社団醫光会	
事業所名	グループホーム のぞみ	
所在地	群馬県高崎市下佐野町 752-1	
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成24年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日明るく楽しく暮らせるように、笑顔や笑い声が弾むホームを心がけています。また、筋力や体力が維持できるように毎日体操をしています。音楽にあわせて体を動かしたり、ラジオ体操はもちろんのこと号令をかけてリジミカルに下肢を動かすなど工夫をしています。食べることが大好きな皆さんに毎週手作りおやつを考え作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の職員は、法人の教育委員会・感染委員会・給食委員会等各種委員会の何処かの委員会に参加し、法人全体としての問題・課題等に取り組むなど、常に資質の向上に努めると共に、各委員会ごとに年間目標を掲げている。例えば、身体拘束をしないケア等のサービスの向上については、教育委員会で話し合わせ、法人全体としての共有化が図られている。年2回の家族会は、クリスマスやミニ学習会等の行事と組み合わせながら取り組み、入居者と家族や家族同士が楽しく過ごし、忌憚のない意見を出してもらい、集約をしてそれを運営に活かす努力をしている。また、人事考課制度導入により、全職員が個々に自己評価を行い、目標設定するなか、管理者は個別面接を行い、職員の前向きな意見を聞き、指導・助言を行うなど、常にサービス向上に繋げる取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの役割について職員会議で話し合い、開設時に作成した理念をもとに地域との関係性を盛り込んだ理念を共有し実践に繋げている	家庭的で地域との関わりを大切にしていく内容が盛り込まれた、開設時の理念を掲げている。毎月の職員会議で地域密着型サービスの役割について話し合い、職員間の共通の認識が出来るよう話し合いながら、介護支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議開催により区長、民生委員を通して地域の方々と交流が出来る様になったり地域の傾聴ボランティアの方と交流を持ったり、秋祭り等の行事には地域の方の参加を呼びかけ交流に機会を持っている	近隣に民家が少ないが、コンビニでの買い物や散歩時に挨拶をし、近くの幼稚園児とは日常的に声をかけあうなか、事業所にも遊びに来てくれる。また、傾聴ボランティアの方が毎週訪問され、入居者の楽しみの一つになっている。事業所の秋祭りには、地域の方も参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催により区長、民生委員、傾聴ボランティアの方を通して地域の方々とも交流が出来る様になってきている秋祭りの行事にも地域の方々の参加を呼びかけ交流の機会を持っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し利用者、家族にも出席していただき入居者の状況報告、交流会、意見交換、話し合いをしている	運営推進会議は、家族会やおやつ作り・ミニ学習会等を組み合わせながら2ヶ月毎に開催し、全家族に声をかけている。事業所からの報告後、意見交換を行い、民生委員からは地域の認知症の独居者の報告や、家族からは感謝の言葉が多く、家族間の情報交換が行われている。	参加メンバーの再考により、さらに多岐の意見を頂き、運営やサービス向上に活かすことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には長寿社会課の担当の方や地域の区長、民生委員、傾聴ボランティアが出席し意見交換を実施している	運営推進会議の出席や書類提出時に、情報交換を行っている。市の職員から「入居者に昔の遊びなどを思い出してもらいメモし、レクリエーションや遊びに誘ったらどうか」とのアドバイスがあり検討している。	市の窓口には各種資料を持参するなど、積極的に訪ね、運営面を含めた情報交換を行うなど、一層の協力関係を築くことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には鍵はかけず気軽に誰でも出入りし易い様心がけている、また職員も拘束研修会に参加し身体及び言葉の拘束をしない様取り組んでいる	年を重ねると骨折等危険リスクが多いことなどを、面会時家族に説明しながら、本人の気持ちや尊厳を大切に考えた身体拘束をしないケアを実践している。職員は法人の教育委員会活動を中心に、事業所内外の身体拘束防止に関する研修会に参加するとともに、管理者は日々拘束に繋がるケアの点検をし、指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について研修会で学びホームでの虐待防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係研修が開催された場合参加し学ぶ機会を持つ努力をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等がある場合は十分な説明を行い家人の不安や疑問点が無いか確認を取り理解、納得いただけるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的には玄関ホールに苦情受付箱を設置し家人来訪時には話し易い雰囲気作りを努めているまた年2回家族会を開催して会話の中から意見や苦情を汲み取るよう努めている	面会時にはまず家族に労いの言葉をかけ、職員は本人と家族の間の潤滑油となって、より話しあいができるよう支えながら、意見や要望が聞けるよう支援している。年2回の家族会は、行事と合わせて行うなど、楽しい雰囲気の中で家族からの意見を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時、毎月開催の職員会議に意見や提案を話し合い職員全員が理念を共有して実践に取り組んでいる	日々の業務の中での気づきは、申し送りノートに記録し、必要時職員会議で話し合っている。また、人事考課制度により、職員は年2回、各自の目標設定と自己評価を実施し、管理者との面接により、評価・指導・助言がされている。研修は、自己申告や管理者からの助言により参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に管理者や職員に対し気配りをし勤務し易い環境作りをしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修、法人内での定期的に行われている研修に参加内容について報告書を提出職場会議で意見をもらう場を持っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入し、グループホーム大会に参加し地域の同業者との交流の機会を持ってサービスの質の向上に反映させているグループホーム大会では体験発表をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話やコミュニケーションを通じ困っている事や不安な事、希望や要望を汲み取り傾聴して信頼関係を築き安心して生活出来る様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議、年2回の家族会を開催して意見交換をしたり家族が来苑した時も困っている事、不安に思う事、要望を発言出来る信頼関係を築けるよう努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の思い、状況等を把握して必要としているサービスが提供出来る様努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで共に過ごし学び支えあう関係を大切にしている、人生の先輩としての体験、昔の話、戦争の話等を教えてもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告相談するとともに家族が来苑時は本人と家族の潤滑油になる様心がける		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関には鍵を掛けずオープンにしている、気軽に来所して頂ける様にと玄関先などに季節の花や壁飾りをして明るい雰囲気作りを心がけている	家族会に孫や曾孫も参加したり、自宅の近くの方が来て昔の話をしたり、姪夫婦が自宅に届いた手紙を持ってきてくれたり、馴染みの美容院へ家族と出かけたり等、馴染みの関係が継続している。職員はそれらから、その人の昔の暮らし方や役割を知り、各種の支援に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内で利用者同士が関わりが持てる様にテーブルの配置を考え時々その雰囲気や席替えをして新たな関わりが持てる様に支援に努めている、居室で過ごす時間が長くない様声掛けすることを心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほかの事業所へ移られた方などに対し、家族から様子を聞いたり相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話のなかで、本人の希望を聞いたり、行動や言動の中から本人の思いや意向を把握することに努めている	入居前の暮らしや生活環境を把握することで、日々の会話のなかで、話の糸口をつかみ、より深い思いや要望を聞くことで、その人の思いに近づけるよう努めている。さらに、日々の行動の中で、その人の合図を見落とさないようにして、申し送りやケア記録により、職員間での共有化を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から要望や意見を聞きこれまでの暮らし、生活環境の把握に努め、職員が寄り添い馴染めるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の思いや体調等に気配りしながら、一人一人の希望に添った対応に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から要望や意見を聞き、職員会議で意見交換を行い現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞き、ケア記録や申し送りノートを参考に、ケアカンファレンスで身体状況の確認をしながら、介護計画(案)を作成し、全職員の確認後、計画作成している。モニタリングを毎週実施し、職員には、変化や不足点等をメモしてもらい、医師からの意見も参考にサービス担当者会議で検討し、現状に即した計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等を個別に記録することで、情報を共有している。毎月のカンファレンスでその状況を確認しながら計画の見直しにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、通院や買物同行等柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員・地域に住んでいる傾聴ボランティアとのふれあい、地域の幼稚園児の訪問、秋祭り等地域とのふれあいに参加して暮らしを楽しむよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し適切な医療が受けられるよう支援している	入居者2名が以前からのかかりつけ医に継続し、家族と一緒に受診している。他の方は協力医による週1回の往診があり、職員が受診援助を行い、記録している。往診の結果は電話で家族に報告し、家族からも通院結果の報告があり、情報の共有化が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの職員が得た情報や気付きは看護師であるホーム長に伝え相談、家人に報告し適切な受診等が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケースワーカーや相談員と連絡をとり情報交換や相談をおこない良い関係作りをおこなっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いを行い事業所ですべてできることを説明、方針の共有し支援に取り組んでいる	食事ができない状態になった時、家族・医師・職員で話し合い、今後の支援方法について、本人の思いを優先し、何をしてほしいかを考慮して、家族の希望を基に、看取り介助を行っている。職員は関係者による方針を共有し、過去に2名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修・講習会に参加し、事故発生時に対応できるように、実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルが作成され法人として、年2回消防署と立ち合いと自主訓練を昼夜想定して避難訓練を行っている。運営推進委員会議を通して近隣の方々には協力を依頼している	年2回避難訓練をしている。自主訓練時は起案に基づき実施し、夜間想定も行っている。区長・民生委員も入った緊急連絡網があり、事業所内に掲示されている。訓練時の地域の人の参加はない。備蓄は約2か月分の米の外、缶づめ・乾物等が用意されている。	地域の人達に何ができるのかを検討し、具体的目標設定をして、地域との協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の誇りやプライバシーを損ねない様個人の気持ちを大切に声掛けや対応に注意を払っている 記録の取り扱いや個人情報の扱いについても徹底している	一人ひとりの思いを、日々の会話の中で感じながら、その人らしい暮らし実現に、日々職員は研鑽を積んでいる。居室に入る時の声かけ、トイレや入浴時の羞恥心への配慮をはじめ、介助時に「失礼します傍に居させてください」と声かけるなど、プライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や行動表現からのサインを読み取り本人の意志や希望が気兼ねなく言える雰囲気を作り自己決定が出来る様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気持ち、体調に合わせ御本人の意見、希望を尊重し希望に添える様支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	明るい色を好む利用者には明るい色の衣服を提供したり選んで頂いてと意見を取り入れている。 髪型も理美容を利用し本人の希望に合わせお洒落を楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつ提供又日曜日の昼食はホーム献立としてパン、パンに合うような献立にしている 又後片付けが可能な利用者には食器拭きやテーブル拭き等手伝いをして頂いている	業者の献立表の他に、季節の物を一品添えるなどして、職員が調理している。入居者の希望や献立内容は、事業所の管理栄養士や法人関係者も参加しての給食委員会で話し合われている。出来る入居者は下拵え・食器洗い・食器拭き等を行い、職員と一緒に楽しい食事の時間を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月一回体重測定をして、バランス等を考慮し、季節の野菜や果物を取り入れた食事を提供している 食事や水分の摂取量は記録に残し、一人一人に応じた健康管理を支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている 又毎晩義歯等の除菌を行っている 口腔ケアの研修会に参加し、学んだ事を参考にして取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し排泄表のチェックをし排泄習慣やパターンを理解し職員間での申し送りによって個々に添った支援を心がけている	日中は一人ひとりの排泄パターンを見ながら支援し、基本的にはトイレ排泄とし、レクリエーションや何かをする前に全員に分かるようにトイレへの声かけをして、羞恥心を持たせないようにしている。夜間は、大きめのパットを使い安眠できるように心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士による献立によって食物繊維の多い野菜・海藻類・豆腐・果物・乳製品等バランスの良い食事を摂っている 又毎日運動をして腸の働きを助けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合によって曜日等制限せず希望に添って入浴して頂いている 又、入浴剤や季節湯等施行し香りや雰囲気等も楽しんで頂いている	毎日午後入浴でき、拒否する方にも時間や介護職員を変えて、週2回は入れるようにしている。入浴時、皮膚の状態をみたり、気持ちもやわらぐので日頃聞けない事を聞き、鼻歌を歌うなど楽しい時間を支援している。季節感を感じてもらうため、バラ・ゆず・菖蒲湯等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間体位交換が必要な利用者には声掛けにて体位交換を行い、トイレ誘導が必要な方には介助する等し安心して就寝できる様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬の目的用法、用量、副作用を理解し正しく服薬出来ているか確認し支援している また症状の変化にも職員間で把握し情報の共有を実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人の生活歴を理解し、毎日の生活の中で張り合いを楽しみながら、変化をつけていく様に支援している 四季の変化が伝わる様に苑内の飾る花や壁や天井に飾りを作り気分転換を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な会話の中から利用者の希望や要望を聞き安全を考慮した上で楽しんでもらえる様外出や散歩、買物、外食を取り入れている また季節の花見・果実狩り・初詣等も利用者が楽しんで生活出来る様支援している	天気の良い日は近隣を散歩したり、買い物や法人の事務所へドライブを兼ねて出かけている。季節の花見や果実狩り、外食に出かける等の外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	時々利用者、職員で外出する事によって買物や外食をして一人一人が希望に応じて楽しく過ごせる様に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への電話や手紙を希望する時は、いつでもやり取りが出来る様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール各所に季節の草花や利用者の作品、写真を飾って、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮したり家族の方が面会に来られた際に安心されるように工夫している	玄関・ホール兼食堂は、明るく、窓からは田畑が一望でき、窓側にはくつろげるようソファが置かれ、季節の花が飾られている。利用者の作品や行事の写真等が壁に飾られ、面会の方が見られるようになっている。トイレ・風呂場等共用空間も手すりがあり掃除も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにて気の合った利用者同士で談話したり、ソファに座ってテレビやビデオを観られる様に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのタンス、鏡台、テレビ、家族の写真や利用者の作品、絵画、人形、時計等が置いてあり、利用者が居心地良く過ごせ、個別性のある居室作りやプライバシーに配慮している	居室入口には暖簾が下がり、部屋を出ているときはドアを開けている。室内は整理整頓がされて、筆筒・テレビ・人形・家族の写真等、思い思いの物を持参し、壁には誕生日カードや作品が飾られ、居心地良く過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	運動内部(廊下、食堂、浴室、トイレ等)で安全に、そして自立した生活が送れる様に、問題があれば職員同士で話し合い、改善して工夫している		